

令和7年3月4日

### 卒業証書授与式あいさつ

- 桜の花が咲きそうな春の香りを感じられるこの佳き日に、PTA 会長の加藤佳代子（かとう かよこ）様のご臨席を賜り、神奈川県立霧が丘高等学校第48回卒業証書授与式が、本校の学び舎で挙げていただけますことを、職員一同、大変うれしく思います。
- 本日、ご参加の保護者の皆さま方におかれましては、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。
- 思い起こせば、3年前、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制約の中で、お子様が高校受験に臨んだ際は、「不安」というだけの一言では表すことはできない気持ちであったと思います。そして、本日の卒業式を迎えられたことは、何にも代えがたい喜びとともに、安堵の気持ちでいっぱいなのではないでしょうか。
- 本日、無事に卒業を迎えられたことを、改めまして、お祝い申し上げます。
- さて、48期生のみなさん、まずは、ご卒業おめでとうございます。
- 先ほどお話したように、みなさんが高校に入学した際は、新型コロナウイルス感染症がパンデミックを引き起こし、緊急事態宣言が措置されるなど、先行きが不安な状態でのスタートであったと思います。
- また、そんな中で、霧が丘高等学校では、耐震工事により教室が仮設校舎だったり、グラウンドは全面利用ができない状態だったり、さらには、体育館が耐震工事となるなど、なかなかいわゆる通常どおりの学校生活という風にはいかなかったことと思います。
- 私は、みなさんとは2年間しか一緒に過ごすことができなかつたのですが、グラウンドが全面使用できなくても、初めてアリーナを使用した体育祭でも、体育館が使用できなくても、48期生のみなさんは、その限られた中で精一杯に自分たちの持てる力を発揮できるよう、何度となく悩み、考え、そしてみんなが最大限に力を発揮できるものを見出し、一丸となって取り組みました。その実践力は、目を見張るものがあつたと私は感じています。
- いつも明るく素直で、元気に挨拶をしてくれる48期生のみなさんは、私は、いつでもキラキラと輝き、とても素敵な生徒に映っていました。
- 当たり前前に思っていたことがとても大切だと気づかされ、自分の命や他者の命が大切であること、そんなことを新型コロナウイルス感染症対策で学んだのではないのでしょうか。
- そして、仲間の大切さ、何事にも全力で取り組むことの大切さなど、この霧が丘高等学校で学び、そしてインクルーシブ教育実践推進校としての学びでは、多様性や思いやりの心も身につけたのではないかと思います。

- これから、みなさんが進む社会では、絶え間ない技術革新により、社会構造が大きく変化しています。予測困難な時代においては、他者を理解し、協働しながら、新たな価値を生み出し、魅力的なアイデアを創出していかねばなりません。
- みなさんが、霧が丘高等学校において様々な制約の中で、自分の力を最大限にいかせる取り組みを導き出してきた3年間は、これからの社会において必要不可欠なものと考えます。
- 卒業にあたり、48期生のみなさんに、私からはなむけの言葉として、「自分には負けない、私にはできる」そんな言葉を送らせてもらいます。
- これから様々なことで、多くのことに悩んだり、難しい問題に直面したりすることがあると思います。そんな時には、「自分には負けない、私はできる」、そんな言葉を自らに言い聞かせてください。それが自信となります。自信とは、自分を信じることです。自分を信じて進むことです。
- みなさんには、まだまだ可能性があります。まだまだ自分の力を伸ばすことができます。そのためにも、自分に負けないでください。
- これからのみなさんの活躍を大いに期待しています。本日は、誠におめでとうございます。